



ボランティアから シビックエンゲージメント（市民協働）へ

シビックエンゲージメントセンター センター長
飯島 泰裕

2022年4月1日に、青山学院大学ボランティアセンターは青山学院大学シビックエンゲージメントセンターに生まれ変わりました。2016年に生まれたボランティアセンターは、ボランティア活動を通じて、豊かな人間性と独創性を備えたリーダーシップを発揮する人材を育成する目的で設立されましたが、今後はボランティアに留まらずシビックエンゲージメント（市民協働）へ活動の範囲を広げ、大きく社会貢献し、それを教育にも活かしていきます。

2019年頃より発生したコロナ禍の中で、人が集まる活動や海外へ行くことが困難となりました。しかし、ICTの力を活用した活動と、対面であっても正しい予防策により、街中清掃 Green Up Project、手話コミュニケーション講座、オンライン日本語サロン、渋谷区版こども食堂「こどもテーブル」、国際協力プランナー入門、認知症サポーター養成講座、防災ボランティア講習などを実施しております。

この他、狭い意味でのボランティアから地域活性化と活動の幅を広げ、自然体験プログラム、相模台団地活性化プロジェクトなども実施しております。困っている人たちのお助け隊としてのボランティアから一歩進み、自然に触れることが少なくなった学生や我々が、里山再生活動を通して、自分ごととして、これからの自然や社会を考えていく活動です。また、高度経済成長期に発展した相模原市相模台団地ですが、時代を経て、高齢者世帯の多く、衰退の様相を呈す地域となっております。認知症サポーターとして始めた活動ですが、明るい青学生が寄り添い、みんなでお菓子作りをしたり、キーホルダー作りをしたりすることで、高齢者だけでなく、若い地域の皆さんを取り込んだ元気を取り戻す活動に広がっています。

さらに、ソーシャルビジネスとして、金沢 Outsider Art Project（障害者のデザインセンスを活かした自立支援）、シブヤフォント、相模原市藤野地区地産ガチャなどの活動も行っています。ここでは、青学生の普段見せないアートのセンスや、流行に敏感なセンスの良さに、驚かされました。実は、センター開設に合わせ、素敵なロゴも学生に作成して頂きました。これからのセンターの力強い歩みを応援してくれるようなロゴです。

こうした活動の他に、青山スタンダード科目「ボランティア・市民協働論」をスタートしました。シビックエンゲージメントセンターの活動を学問的に見つめ直し、多くの学生に市民協働やボランティアの知識を得てもらうための活動です。また、市民協働やボランティアの体験を人生に役立つ体や心で学ぶ学習として、「サービス・ラーニングとしてのボランティア活動」、「サービス・ラーニングⅠ、Ⅱ、Ⅲ」について実施協力を行っています。より多くの青学生に、ボランティア活動を知ってもらい、社会への貢献を考えてもらう教育です。こうしたスピリッツの上に、専門科目で学ぶ知識や技能、研究が加われば、素晴らしい成果が期待されます。

最後に、活動報告書も紀要へ衣替えです。活動の報告だけでなく、論文なども掲載していく冊子となります。市民協働を学問的にも捉え、新たな知見を見出し、センター活動を体系的に進化させていきます。

市民協働の活動は、まさに、「地の塩、世の光」への道なのです。2022年4月1日に生まれ変わった、シビックエンゲージメントセンターですが、まだまだ次世代へ向けて大きく変化していきます。皆様におかれましては、今後を見守ると同時にご支援ご協力を切にお願いいたします。



熱いハートとクールなスキル

シビックエンゲージメントセンター 副センター長
大宮 謙

シビックエンゲージメントセンターに改組して1年、その成果がこの紀要に凝縮されています。前年度までの『ボランティアセンター活動報告書』から、紀要『シビックエンゲージメント研究』の創刊へと、私たちは一歩踏み出しました。

そもそも「シビックエンゲージメント」とは何か、という根本的な問いに対して、センターとしての答えが確立しているわけではありません。でも、だからこそ、研究し甲斐のあるテーマなのだと思います。枠組みが必ずしもガッチリしているわけでないからこそ、時に柔軟に、時に大胆に、センターが活動を展開して行くことができるのだと思います。

もちろんセンターとして活動していく上では理念、方法論を練り上げていくことが必要です。また、理念、方法論に基づく実践を検証して行くことも欠かせません。私たちの紀要が、理論と実践の対話が有機的に行われる場として豊かな実りをもたらすことを願ってやみません。

私事ですが、ボランティアセンターで2年間、シビックエンゲージメントセンターで1年間、合わせて3年間務めさせていただいた副センター長を、2023年3月をもって退任させていただくこととなりました。在任中、皆さまにたいへんお世話になりましたこと、心より感謝申し上げます。

2023年4月からは、大学宗教部長に就任致します。役職上、シビックエンゲージメントセンターの会議に出席することもあります。基本的にはセンターの運営に直接関わる立場から、一枠外から応援する立場に変わります。

もっとも、シビックエンゲージメントセンターの取り組みの一つであるサービス・ラーニング科目は引き続き担当いたしますので、地域の活動団体、ソーシャル・ビジネス企業の皆さまには、引き続きご協力いただくことになります。

今の私は、モーセが自身の生涯の最後に、ネボ山の頂から、約束の地カナンを見た時の心境に近いものを覚えております(旧約聖書 申命記 32章 48-52節)。シビックエンゲージメントセンターが、さらにパワーアップして、地域の皆さま、全国の皆さまと共に働き、また国際社会において持ち味を発揮していく予感をヒシヒシと感じつつ、私は副センター長としての任を降りることになります。

青山学院は「地の塩、世の光」をスクール・モットーとし、「サーバント・リーダー」を世に送り出すことを願いつつ教育、研究活動を行っていますが、シビックエンゲージメントセンターがその託された務めに取り組み、専門的な知見を活かして地域の諸課題に関わり続ける中で、「熱いハートとクールなスキル」を身に着けたリーダーをさらに生み出していくことができるように、願っています。

引き続き、ご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

青山学院大学シビックエンゲージメントセンターについて

青山学院大学シビックエンゲージメントセンターは2022年4月に開設しました。

青山学院のスクール・モットーである「地の塩、世の光」を体現する人物、サーバント・リーダーの育成に向け策定された AOYAMA VISION に基づき、前進であるボランティアセンターを改組した組織です。

2011年の東日本大震災以降、青学生が主体的に展開してきたボランティア活動を発展させつつ正課との接続を強化させ、サーバント・リーダーシップ教育に取り組みます。

■設 立 2022年4月設立（2016年に設立したボランティアセンターより改組）

■所在地 青山学院大学青山キャンパス 1号館 1階
青山学院大学相模原キャンパス F棟 2階

■センターの特色

「地の塩、世の光」となり地域社会や国際社会に貢献する
「知（学問）の力」「若い（学生）力」「スマート（サーバントリーダー）な力」を活用する
社会のニーズにあったボランティア活動を組織的に展開する

■センターミッション

- ①大学と社会の繋がりをつくる
学生・教職員の自発的な社会貢献活動への参画を促進すること
- ②より良い社会をつくっていく
大学の持つ専門性や強みを活用してボランティアや市民協働活動の社会的効果を向上すること
- ③社会から学び、自分の力へ
社会貢献活動への参加に伴う教育的効果を向上させること



【センター外観 青山（左）、相模原（右）】

シビックエンゲージメントセンター（CEC）ロゴ制作

シビックエンゲージメントセンター（以下、CEC）はこれまでのボランティア活動支援に加え、市民協働活動そしてサービス・ラーニングの3つを活動の基軸とし、より自発的な社会参加を促し、社会課題解決に取り組み、社会貢献活動に取り組めるよう支援することが求められている。

一方、名称からどのような役割を担うセンターかイメージしづらく、ボランティアや社会貢献活動に関心がある学生と直接的接点を持つてなくなることが懸念されていた。そこで、CECを学生たちに認知されやすく、親しみを持ってもらえるようなイメージロゴマークを学内で募集した。

応募作品の選考については、大学関係者以外にも本学のキャンパスが所在する東京都渋谷区役所と神奈川県相模原市役所の職員の方にも審査員として協力いただき、最終的には4件の応募作品の中から石原穂乃香さん（総合文化政策学部総合文化政策学科4年当時）のデザイン「Spring」が採用された。

<企画から採用までの流れ>

2022年4月11日～5月13日	学内公募
6月16日	選定委員会開催、イメージロゴ決定
7月22日	2022年度第2回実務委員会にてデザイン案協議
〃	CEC エントランス看板設置・披露及び学生表彰



（中央が石原穂乃香さん、左が選考委員長の内田達也副学長、右が飯島泰裕センター長）



作品コンセプト：

「C」と「E」と「C」を組み合わせた誰でも走り書きができそうなシンプルなシンボルになっていて、その気軽さとバネのようなシルエットでフレンドリー感を出し、柔軟性を表現している。

コーディネーター挨拶

青山キャンパス

シビックエンゲージメントセンターとしての新たな出発から1年が経ちました。学生たちには「シビセン」「シビック」「CEC」などとさまざまな表記で呼ばれているようです。

これまで以上に学生や地域社会の方々に親しみを感じてもらえるよう、新しいCECロゴとともにホップ・ステップ・ジャンプしてまいります。

佐藤 亜希

コロナ禍で休止していた活動が徐々に再開し、今年度は海外（カンボジア）でのサービス・ラーニングプログラムを初めて実施することができました。今後も学生の主体的な社会参加を支え導くことを通して、地域社会や学院の関係者の皆様と共に学び育つことのできるセンター作りを目指してまいります。

秋元 みどり

この1年はこどもテーブルや広尾中アフタースクールボランティア、シブヤフォント等の事業を通じて、特に渋谷の地域の方々と多くの出会いがありました。また、新たな学生スタッフが誕生し、共にセンターを支えてくれる頼もしい仲間も増えました。今後もシビックエンゲージメントセンターが学生や地域の方々にとって馴染みのあるセンターとなれるよう尽力してまいります。

島崎 由宇

相模原キャンパス

「シビックエンゲージメントセンターって何をするとところですか？」と訊かれた際は「地域と大学をボランティアでつなぐようなところですよ」とまずは答えています。学生、地域の方、大学関係者等、訊かれた方の立場によって（誤解のないよう）説明する内容を選びながら「社会貢献」をキーワードにお伝えしています。この1年間では、ボランティアセンターからの改組を受けて、青山スタンダード科目での講義が始まり、市民協働を象徴するプロジェクトの数々が発展してきました。これらの事業を中心に、学生たちに広くセンターが周知され、地域の皆様に大学を受け入れていただけるよう、今年度も頑張ってまいりたいと思います。

三神 憲一

2022年6月に当センターに着任し、コーディネーターとしてお仕事をさせていただいております。当センターがシビックエンゲージメントセンターに改編されるのとほぼ同じタイミングで採用されましたので、私の役割はこれまでのボランティアセンターとは異なる視点から新たな取り組みを行っていくことだと感じています。CECの活動を通して学生たちが人間的に成長できる機会を作り、また地域の方々の誇りとなるような大学にしていけるよう力を尽くしてまいります。

水谷 耕平

学生スタッフ

シビックエンゲージメントセンターでは、センターが掲げるミッション実現に向けて、コーディネーターと共に青学生のボランティア活動や社会貢献活動を促進し、学生と地域をつなぐ役割を担う学生スタッフ制度を開始しました。

学生スタッフとしての活動を通して、ボランティアや社会貢献活動に関する視野を拡げ、さまざまな地域や団体との連携から社会について学び、CECと共に青学生の社会貢献力を高めたい！そんな強い意志と行動力をもつ仲間を募集しています。

主な活動

- ・センター主催事業の企画や運営
- ・本学学生に向けたボランティア活動や市民協働活動の啓発や促進・情報発信
- ・その他、センターが必要とする活動の補佐業務

青山キャンパス

4人（2年生1人、3年生3人）

相模原キャンパス

3人（2年生1人、3年生2人）

学生スタッフの声

私は渋谷区の笹塚地域における「まちのお手伝いマネージャー」の活動に参加し、笹塚に暮らす人々の日常の小さな問題を解消する活動に携わりました。活動の目的は、窓ふき等の物理的な問題の解消だけでなく、活動の中でちょっとした世間話を通して精神的安心感につなげることで、その方が地域で孤立しない関係性を作っていく取り組みの重要性を学ぶことができました。学生スタッフとして、ボランティアに参加して終わりではなく、活動で自分が学んだことを他のスタッフと共有することで新たな発見や反省点も生まれ、次の活動に活かすことができました。



青山キャンパス学生スタッフ
文学部フランス文学科 二通 優衣



相模原キャンパス学生スタッフ
コミュニティ人間科学部コミュニティ人間科学科 藤原 照人

今年度より“学生スタッフ1年生”として活動してきました。私たちはセンター事業への参画、ボランティアコーディネーション力検定の受験や、ボランティア研修集会への参加を通じて、外部との接点を増やすことを意識し、ボランティアに関する理解を深めました。特に「相武台団地活性化プロジェクト」ではプロジェクトのまとめ役としてメンバー間の対話を意識して活動しました。反省すべき点も多々ありましたが、学生スタッフ同士で支えあうことで、我々にしかできない様々な経験ができ、困難も乗り越えることができたと思います。1年を通して関わって下さった皆さんに改めて感謝申し上げます。